

2016年度第2回NGO-JICA協議会  
【協議事項1-2】

# ソーシャル・ファームから 国際協力へ ～北海道のチャレンジ～

一般財団法人 北海道国際交流センター(HIF)

## 少子高齢化・過疎化の北海道

- 食糧自給率 200%を超える北海道
- 一方で、農業の担い手が減っている
- 限界集落も増えており、2050年には8割が消滅



## “多様性”が北海道のキーワード

- ニセコに移住するオーストラリア人
- 道北の歌登に押し寄せるタイ人観光客
- 日本の若者が一次産業にチャレンジ
- 障がい者が、生産の中心に



## ソーシャルファームとは

ソーシャルファーム (Social Firm)は1970年頃に北イタリアの精神病院での取り組みから生まれた。入院治療が必要でなくなった患者さんがいざ地域に住み、仕事に就こうとしても、偏見差別の意識から雇用してくれる企業がなく、病院職員と患者が一緒になって仕事をする企業体を自ら作ったのが、はじまりと言われている。この手法は、1980年代に、ドイツ、オランダ、フィンランド、イギリスなど、ヨーロッパ各地に広がり、日本でも徐々に広がっている。

共に働き ともに生きる



## 共働学舎新得農場

- 心身にハンディを持った人たち、70名との共同生活をしながら、自給自足の生活を行う。一方で、世界一のチーズを生産し、開発途上国へのアドバイスなどを行う。



## べてるの家（浦河）

- べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点。当事者研究で世界中から研究者が集まっている。バングラディッシュ、スリランカなどでも、精神障害の解放活動を行っている。



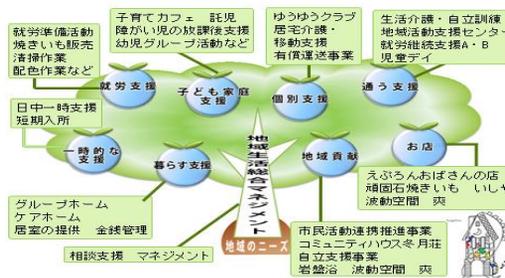
# ワーカーズコープ 北海道事業本部

- 労働者協同組合(ワーカーズコープ)センター事業団は、「働く市民が主人公となって、人や地域に役立つ仕事おこしを進める協同組合」。若者の就労支援、生活困窮者支援、子ども食堂、障がい児童の放課後DAY、フードバンクなど幅広い活動を行っており、開発途上国支援にもつながる。



## 地域生活ネットワークサロン(釧路)

- 誰もが主体的に生き生きと安心して生活できるよう、地域における生活支援体制を整備し、地域福祉に寄与することを目的として活動。釧路モデルと称された「コミュニティハウス冬月荘」をはじめ幅広い活動は、世界のモデルになっている。



## ゆうゆう(当別)

- 北海道当別町において障がい者、高齢者、子どもを含めたインクルーシブな地域の発展を目指したモデル的な事業を行っており、発展途上国の障害者福祉の有効な手法とされる地域に根差したインクルーシブな地域開発の参考となる知見を有しており、JICAとの協働事業を行っている。



## 江差福祉会(あすなろ学園)

- 施設利用者の多種多様な個人のニーズに対応し、且つそれぞれの特性・能力に応じた生活・作業指導を通して、より豊かなライフステージの創造が模索かつ実現できるように、専門的「治療・教育」機関としての役割を十分に踏まえ活動。デンマーク、フィンランドとのつながりを持ち、「災害備蓄パン」は世界の震災支援に役立つ。



## 社会課題先進地の北海道

- 社会課題にいち早く向き合わざるを得ない北海道にあって、地域の課題は世界と向き合うことで解決の糸口を見つけられることになる。「世界を視野に行動する」ことが、これからの地域を変えることになる。

